

## アベ政治を終わらせためスタンディングを続けます！！

### －浦和スタンディング寅次郎さんに聞く（全文掲載）－

浦和スタンディングをご存じでしょうか。そう、一年以上前から浦和駅東口バスターミナル付近で、「アベ政治を許さない」などの政治メッセージをかかげて立っている市民運動のことです。編集部は、その中心で活躍されているハンドルネーム“寅次郎さん”に浦和スタンディングを立ち上げた経緯や運動のその反響ぶり、これからの抱負などをインタビューさせていただきましたのでご紹介します。（2015年11月）



**Q. 浦和スタンディングを立ち上げた経緯をご紹介願います。**

A. 昨年7月1日集団的自衛権行使容認を閣議決定したことは私にとって衝撃的なことでした。何かしなければと思っていたところ、その直後の7月4日に朝日新聞に南越谷でスタンディングをしている記事がでていました。ただちに南越谷に見学にいきパクちゃんというハンドルネームの女性と会ってこれならやれると思ったのです。その翌日から浦和駅東口で立ち始めました、その後火曜を除く毎日4時間ずつ午前、午後と続けていきました。そうこうしているうちに女性たちがどっと応援にきてくれました。生活クラブ関係の方でした。パクちゃんから浦和でやっているから応援してくれと連絡があったということでした。その生活クラブの方がPCのHPも立ち上げてくれました。私は当初ひとりで立ち始めて、フェイスとフェイスでひろげようと思っていましたが、フェイスブックというネットを使って、フェイスとフェイス、プラスネットの組合せでひろがっていきました。

私は、現場監督です。ポストのような役割。ブログに貼りだして、コメントを貰う。スタンディングの原則は、誹謗中傷はしないこと、通行人の邪魔にならないことです。HPの管理人さんは有能な人で、いろんな情報を持ってきてくれます。私は管理人を、影の総理、闇の検閲官と呼んでいます。そしてドリアンさんという人がいるのですが、いろんな企画をしてくれます。私はドリアンさんを官房長官とよんでいます。私はいつてみれば序列3番目。少子化担当大臣といったところで、現場担当です。

朝日新聞の記者が取材にきて、浦和スタンディングは寅次郎さんが一人で頑張っているという記事にしたかったようですがそうではありません。あくまでチームプレーで、そこを強調したいと思います。

そして、参加してくれる人が増えるたびに変化し成長しています。

今日のインタビューもその一つとして受けとめています。但し、政党や宗教としては無職であることをご理解下さい。

#### Q. 浦和以外にもありますか？

A. まず南越谷ですね。パクちゃんと呼んでいるナンコシスタンディングが私たちのルーツです。パクちゃんはスタンディングのお母さんです。あの人がいたから浦和もある。そしてパクちゃんも新宿西口で再びスタンディングを始めているかの有名な大木晴子さんをまねて南越谷ではじめたということとですから、大木さんは我々スタンディングのおばあちゃんですね。あとは、川口、大宮、上尾といったところでやっていますね。HPをもってやっているのは、南越谷、浦和、川口ということですから、スケジュールが分かるのはそのあたりです。

#### Q. 全国的にはどうなのでしょう？

A. 日本一斉スタンディングをやろうと呼びかけてますので何百箇所とあるはずです。今年は3. 11全国一斉スタンディングが提起されました。沢地久枝さんの「アベ政治を許さない」という一斉意志表示活動の前のことです。

Q. チームでやっているというのは意外でした。私達はそれこそチームプレーが多いのですが寅次郎さんは個人での活動であると思っていました。チームと個人という視点でとらえますと、スタンディングはどういうことになるのでしょうか？

A. あくまで個人が中心です。ただ、どこかの議員が全体主義と個人主義しかないみたいな言い方をしましたがあれはおかしい。戦争に行くのがいやで国のことを何も考えない利己主義がはびこっている、そういう考えは論外です。共産党さんになると歴史もあるし組織もあるでしょうからチームを離れて個人でというのは大変でしょうけれども。

#### Q. 名前ですが「寅次郎さん」でいいですか？

A. はい、寅次郎で結構です。最近、名前を出すことに不安を感じています。市役所で名前を書いたりする時、不安を感じる。政治に一步踏み出してから、色んな圧力がないか危険を感じる時があります。

#### Q. スタンディングの反応はいかがですか？

A. まー、一番細かいことから言いますと、最初に40代のやせた女性がきました。「あんた何やってんの。私はひと目見てすぐいい人とそうでない人が分かるのよ。あなたはいい人。何かやらせて」と言って一緒に立ってくれました。その方はヘルパーになるんだと言ってましたので一緒に活動しながら介護福祉士の勉強をしました。そうこうしているうちにパタッと来なくなりました。その後そうしているか心配です。その人が原点です。その後だんだん60代、70代のおばあちゃんが突っ込んでくるようになりました。上手いくと手を振ってくれるようになりました。決定的に流れが変わったのは、やはり今年5月に、憲法学書3人が違憲と言ったときからですね。小林節さん長谷部さんなどです。それからは、多くのおじさんたちも手を振るようになってきました。私から言わせると、学者先生の方が遅いんですがね。庶民は憲法違反であることを1年前から知っていたんです。おそらくこのままでは、仕事にもさしつかえらると思って違憲と言ってきたんだと思います。

もうひとつは、秩父に住んでいるダニー・ネフタイアさんが、いいアイデアを出してくれました。「日本人はシャイだからプラカードがいい。演説よりプラカードで共鳴したら手を振ってくればいい」というようなことでした。これを早速採り入れ、賛同の方は手を振ってください、と書いたら親父たちの反応がいいんです。そうした色々な発明があります。フレーズかもしれないし、飾りの仕方かもしれません。そういうアイデアは、やりながら増えていくんです。

でも、一番大事なのは元気な挨拶です。最初はやはり、「こんばんは、お疲れさまです」がいい。新たに人が入るたびに変わってくる。それがいいと思っている。今日はこうだが、明日はこうだと言う風に。アピールは何でもありです。最初はゴミのぼい捨てはやめましようでした。今は、アベで忙しいが、本来はちがう。ホント色んな人がいますよ。

「戦争反対」と言うと「いったいどこに戦争があるんだ。バカバカバカ・・・」と言って去るのがいました。でもこれならそれで終わるからまだいいです。20歳位の若いあんちゃんが来たときは閉口しました。何時間もしゃべっていくんです。初めはよく聞いてましたが、2回目は話を聞かなくなってきました。3回目は明らかに話をずらしてきました。若い人がそういうのがいた。そういうとき17歳の高校生と一緒にたってくれました。爺さん一人で可哀想だからと言って立ってくれたのです。その高校生は発達障害者だったのですが、そのことについて話していたら、「あなたは、障害者と言った」と言ってきたので、私はこれとは思いました。そうしたら高校生は交番に行って私のことをとやかに言うのです。そういうしつこいのが若い人にいます。そういう人たちと議論するのはさすがに見切りをつけました。やはり「何かしたいので・・・」という人がいいですね。自民党のおじさんたちが、統一選の時、私に「道は違うけど一緒に頑張りよう・・・」と言ってきました。そう言って帰ってくれる人はいいです。それが気にいらないという人はだめです。児童虐待だ、と言ってきたり、意味が分からないと言ってきたり。戦前なら治安維持法で監獄だ、と言ってくるのもいた。いろんな悪態をついてくる人もいます。

**ここで、寅次郎さんのインタビューに同席していただいた浦和スタンディングの男性の方にも一言お話をさせていただきました。**

寅次郎さんによると、この方は60歳の定年で退職して3ヶ月位になってから、ほぼ毎日参加してくれているとのこと。さらに国会前の情報やあちこちの情報も教えてくれる。私たちのキューピットだと思っているとのこと。

**Q. どういう思いで参加されてるのでしょうか？**

A. 寅次郎さんと同じで、強行採決以来、いてもたってもいられなくて何かやらないといけないと思い国会前に行ったり有楽町駅前のスナックに行ったり、あちこちに行ってます。仕事をしている時は残業残業で、深く考える余裕はありませんでした。そういう人は多いと思います。政治の話しとかできませんでしたが、定年なってはじめました。仕事の時私は私的自衛権といのはわかりませんが、強行採決まじかになって集会に行くようになり、チラシを読んだり、国会前にも行くようになりました。縦がかり全国運動にもいきました。これからは何かやらないといけないという気持ちです。仕事をしている人の代わりに頑張るといこともあります。

**再び寅次郎さんにお伺いしました。**

**Q. 共産党についてはどうでしょうか？また他の政党についてはどう思いますか？**

A. 正直な事を言いますと私の父が社会党でしたから私も社会党を応援していました。姉は、民青に入って共産党の活動もしていましたので共産党にもシンパシーを感じています。ただやはり私も二大政党制に期待し民主党の政権交代に期待していました。はっきり言って前の民主党政権は失敗です。運動の中心は今度の参院選です。自公を落選させ野党統一候補でいかねばなりません。私は、「共産党さん、選挙をどうするんですか。野党統一候補に協力しないんですか」と聞こうと考えていました。ところが先に志位さんから共同候補の提案をされてしまいました。しかも閣外協力でいいとまで言っているのです。これには、感心しました。特になにもいうことはありません。大変でしょうけれども是非その方針で行ってほしいと思います。公明党は論外です。自民党にもいい人はいたのですが、今回誰も造反が出ないというのはどういうことでしょうか。全く危うさを感じます。民主党にも変なのが数人いますね、民主党が共産党とやれるはずがないとあからさまにいう人たちです。岡田さんや枝野さんはいずれ、彼らを切るか、出ていくのを待つか、何を言っても無視するか3つの選択に迫られるのではないのでしょうか。やはり民主党を中心に選挙協力して欲しいと思います。しかし昔は政党が民衆をオルグしていましたが、これからは民衆が政党を引っ張っていくようになります。できれば私たちが候補者を提案し、政党がそれに賛同するというのが望ましいんですがねえ。

**—女性に政権を譲って百年位はやって欲しい。そうすれば戦争はなくなる—**

**Q. 最後に寅次郎さんの夢をお願いします。**

A. 地球上で戦争がなくなるのは人間の本能だからだ、という人がいます。しかし果たしてそうなのでしょうか？私は女性に政権を百年位やってほしいと願ってます。そうしたら戦争のない時代になるのではないのでしょうか。そうした活動をしていきたいですね。

本日は大変ありがとうございました。

